

3/14(木)

14～17時

2023年度

平和大学講座

諸宗教における人間性の教育を語る —他者の痛みへの共感を育むために—

開催趣旨

ロシアによるウクライナ侵攻は、停戦のきざしのないまま、2年が経過しています。また、ミャンマーの軍事政権、シリアの内戦、イスラエル・ガザ地区等、世界各地で紛争が相次いでいます。さらには、地震や洪水、山火事など、自然災害も多発しています。一方、現代社会では、不平等が依然として根強く存在しています。収入格差、教育格差、人種やジェンダーに基づく不平等、そして他にも多くの形態の不平等が存在しています。今この瞬間にも世界のどこかで、人災や天災のために、また社会の不平等・不正義のために、大勢の人々が苦しんでいます。

私たちは、手や足の指先であろうと、どの部分が痛んでも、その痛みは自らの痛みとして感じます。そして、私たち人間一人ひとり、誰もが人類の一員であります。人類の誰かが痛みや苦しみを感じているならば、それは本来、私たち皆が感じなければならない痛みや苦しみではないでしょうか。他者の痛みや喜びを理解し、受けとめる共感・共苦の心は、他の人々の立場や経験に連帯し、不平等に対抗するその糸口になると思われまます。そのように、他者の痛みへの共感の力を養うことは、現代社会のさまざまな諸問題に対処し、不平等を克服するために、非常に重要なことだと思います。宗教、文化、信念を超えた共感とは、社会的正義の実現に向けた努力を、加速させるに違いありません。

私たちにはまた、この共感の自覚から一歩進んで、少しでも世界から苦痛が無くなるよう、自分に可能なことを行うことが求められています。そうした自覚や行動は、まさに人間性（ヒューマニティ）に基づくものであります。では、私たちは、どのようにしてそうした人間性を開発し、身につけていくものなのでしょうか。また諸宗教は、どのようにして人間性の教育を担っているのでしょうか。宗教教育の場面は、学校や家庭、社会、そして教会や寺院、神社、モスクで日々行われています。そこで、2023年度の平和大学講座では、「諸宗教における人間性の教育を語る」というテーマを取り上げ、特に他者の痛みへの共感力の育成に焦点を合わせ、キリスト教、イスラーム、仏教、神道の教育の第一線で携わる方々の話を聞いて、宗教的ヒューマニズムの持つ可能性や展望について皆さまと共に考えてまいりたいと思います。

なお、今回のテーマは、WCRP 日本委員会平和研究所の 2023 年度テーマ「未来の地球社会の平和を目指して一人間性の回復を通して」を踏まえています。

プログラム

総合司会：齋藤忠夫（東北大学名誉教授）

14:00 開会・平和の祈り

開会挨拶：戸松義晴（WCRP理事長）

14:05 基調発題：岡野治子（清泉女子大学元学長・名誉教授）

15:05 休憩

15:15 パネルディスカッション

コーディネーター：金子昭（天理大学おやさと研究所教授）

パネリスト：

森伸生（拓殖大学イスラーム研究所所長）

和田恵久巳（立正佼成会総務部長）

藤本頼生（國學院大学教授）

質疑応答

16:55 閉会挨拶：竹村牧男（WCRP平和研究所所長／東洋大学名誉教授）

17:00 平和の祈り・閉会

会場

・浄土宗宗務庁3階講堂
（〒605-0062京都市東山区林下町400-8）

・オンライン(zoom)

主催



（公財）世界宗教者
平和会議（WCRP）
日本委員会



岡野 治子（清泉女子大学名誉教授）

上智大学外国語学部ドイツ語学科卒業。広島大学教授、清泉女子大学学長を経て、現在清泉女子大学名誉教授。フランクフルト大学、ザルツブルク大学、ティルブルク大学客員教授として、宗教間・異文化間対話の講義・ゼミを担当。著書には、『宗教のなかの女性史』、『日本女性史・中世篇』、『希望の倫理』、『日本文化におけるキリスト教神学の意味』（独文）、『「和」の原理の功罪』（独文）など。また『女性の視点による神学事典』の共著、共翻訳、共編集に携わる。日本の諸宗教とキリスト教文化との間を往来しながら、人間観、家族観、社会倫理をジェンダーの視点で再考している。

総司会



齋藤 忠夫（東北大学大学院名誉教授／WCRP平和研究所所員）

東北大学大学院農学研究所博士課程修了（農学博士）。専門は畜産食品科学、応用微生物学、糖鎖生物工学。アジア乳酸菌学会連合(AFSLAB)フェロー。日本農芸化学会フェロー。日本酪農科学会（JDSA）顧問。日本乳酸菌学会名誉会員、日本酪農科学会賞(1998)および日本畜産学会賞(2002)を受賞。現在、オエノンホールディングス株式会社社外取締役、国際酪農連盟日本委員会(JIDF)会長、Jミルク国際委員会委員長。

コーディネーター



金子 昭（天理大学おやさと研究所教授／WCRP平和研究所所員）

世界宗教者平和会議日本委員会平和研究所員。哲学博士（慶応義塾大学）。倫理学、哲学的人間学、宗教社会福祉論などを専門とする。現在の関心は宗教間対話、平和の比較思想的研究など。主な著作に、『天理人間学総説』（1999年）、『宗教原理主義を超えて』（2002年）、『驚異の仏教ボランティア—台湾の社会参画仏教「慈濟会」』（2005年）。

パネリスト



森 伸生（拓殖大学名誉教授イスラーム研究所長／WCRP平和研究所所員）

1951年福岡県出身。拓殖大学政経学部卒業および在サウジアラビアウナム・ル・クラ大学イスラーム神学部卒業。専攻分野はイスラーム神学、法学、サウディアラビアを中心とした中東地域研究。在サウジアラビア日本大使館専門調査員、拓殖大学イスラーム研究所教授・所長を経て、2022年4月より拓殖大学名誉教授・イスラーム研究所長。WCRP日本委員会平和研究所所員。主要著書に『ユーラシア東西文明に影響したイスラーム』（共著）（自由社2008年）、『近代日本のイスラーム認識—ムスリム田中逸平の軌跡から—』（共著）（自由社2009年）、『近代日本のイスラーム（シャリーア）認識』（共著）（田中逸平研究会2012年）、『サウディアラビア 二聖都の守護者』（山川出版2014年）、『中東・イスラーム世界への30の扉』（共著）（ミネルヴァ書房2021年）、『君主制諸国』（共著）（ミネルヴァ書房2023年）などがある。

パネリスト



和田 恵久巳（立正佼成会理事・総務部長／WCRP特別会員）

東京外国語大学アラビア語学科を卒業後、カイロ大学にて2年間アラビア語、イスラーム法を学ぶ。1993年立正佼成会に奉職し、本部渉外課にて一食平和基金や諸宗教対話・協力活動を担当する。1998年、英国オックスフォードに赴任し、国際自由宗教連盟国際事務局及び英国立正佼成会の拠点員を務める。その間、パーミンガム大学神学部諸宗教関係論において修士号取得。2007年に帰国し、以来2018年11月までWCRP/RfP日本委員会事務局にて総務部長として従事。2018年12月より、本部にて国際諸宗教協力専任部長を務め、2021年より現職。また2019年よりRfP国際女性ネットワーク副委員長を務める。

パネリスト



藤本 頼生（國學院大學教授／WCRP平和研究所所員）

1974年岡山県出身。國學院大學大学院文学研究科博士課程修了。博士（神道学）。國學院大學神道文化学部専任講師、同准教授を経て、現在國學院大學神道文化学部教授。WCRP日本委員会平和研究所所員、一般財団法人神道文化会理事。専門分野は神道学、近代神道史、宗教社会学、都市社会と神社。主な著書に『神道と社会事業の近代史』『神社と神様がよ〜くわかる本』『東京大神宮ものがたり—大神宮の一四〇年』『明治維新と天皇・神社』『よくわかる皇室制度』『現代「神道」講座—寛容と共生のこころ』、編著に『地域社会をつくる宗教』『鳥居大図鑑』など。